

# ようこそ わがまちへ

町外から大山町に転入した  
元気な人を紹介します。



立ったまま作業ができる高設ベッドを導入しています。主にホテル向けの業務用中心ですが地元のスーパーへの出荷やインターネットでの直接販売もしています。(米子市淀江町中西尾のビニールハウスで)



ベビーリーフ(野菜の幼葉)を収穫中。1枚1枚手積みします。

まちの印象は？  
転入したところは今在家の町営住宅に住んでいます。3年前に上中高の空家へ引っ越しました。最近、おす

この仕事をはじめたきっかけは？  
豚のふん尿の処理方法が厳しくなったため、何か変わりにできるものを探していました。近隣のホテルの料理長にとびこみで話を聞いたりして、たどり着いたのがこだわりの野菜づくり

まちに住むことになったきっかけは？  
出雲市で養豚業をしていましたが、昭和59年に、大山町(旧名和町)の養豚場に仕事の空きがあったのがきっかけでこちらへ移り住みました。6年勤めた後、独立し、400〜500頭の豚を飼っていました。



はら みねお  
原 峯生さん  
(上中高・68歳)

「こだわり野菜工房」を経営し、農薬や化学肥料を一切使わない、おいしい野菜づくりにこだわりました。

そわけの野菜のお礼にと手作り豆腐をいただきました。家に寄ってもらって気軽に話をしたりと、そんな近所づきあいができるところがいいですね。

でした。

平成12年から試験的に始め、14年には米子市淀江町のビニールハウスでも始めました。栽培方法、肥料、土壌に徹底的にこだわり、納得のいく安心・安全な野菜づくりをしています。ここでは比較的重量の少ない野菜を扱っていますが、町内には契約農家が6軒あり、そこでは路地で無農薬のサツマイモやトマト、ミニキュウリを作ってもらっています。最初の販売先は近隣のホテルだけでしたが、くちこみで徐々に広がり、今では関東から九州まで43軒あまりのホテルやレストランなどと取り引きをしています。

まちに望むことは？

大山町は土と水に恵まれています。適地適作を見つけて、奨励を行い広く売り出してほしいと思います。また、高齢者でも簡単にできて、やりがいにつながるような取り組みをして、その輪を広げてほしいです。小規模な農地を有効に使えないかとも思いますね。

## 編集後記

食欲・読書・運動の秋です。みなさんはどんな秋を満喫されていますか？私は気がつくくと体重が2キロくらい増えてました。広報担当になったプレッシャーで痩せているはずだったのに、恐るべし食欲の秋。

あらためまして、みなさんこんにちは。新しく広報担当になった企画情報課情報管理室の加藤貴子です。まさかまたこの広報に携わることになるうとは夢にも思わなかったのですが、人生何があるかわかりませんが、文章が苦手な私ですが、これから、町内の情報を分かりやすく、広くなった町を身近に感じていただけるよう努力したいと思います。たくさんの方が参加していただけるような広報を目指したいと思います。もうじき紅葉の季節です。大山が今年は何んな姿を見せてくれるでしょうか。楽しみです。K

私たちのまち(10月1日現在)

○人口: 19,136人(+3)  
男: 9,100人(+8)  
女: 10,036人(-11)  
○世帯数: 5,954世帯(+9)



大山町広報11月号 No.35

◆発行: 大山町役場

◆編集: 企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-2702

大山町ホームページ <http://www.daisen.jp/>

◆印刷: 有限会社米子プリント社

古紙配合率100%  
再生紙を使用しています。



この印刷物は  
大豆インキを使用しています。